

全国25県連・団体から113人が支援に駆けつける！

2011年3月13日
午後8時30分現在



転倒して出血した患者さんの治療をする南條医師と山城看護師（13日、多賀城市文化センターにて）

13日午後、立川相互病院から駆けつけた南條嘉宏医師、山城直子看護師さんたち5人のチームは、小鷹クリニックの小鷹医師と合流して、多賀城文化センターを訪問しました。ここには2,500人の避難者が廊下まで溢れていました。

健康相談会案内の全館放送と同時に、50人近くが行列をつくりました。文化センターでの医師による診察は始めてのこと。熱が39度の子どもさんや血圧が180のお年寄り、薬を自宅に置いたまま避難してきて、津波で家に帰れない人など、多くの避難者の方が医療を待ち望んでいました。診察の後、安心したのか、涙ぐみながら感謝して帰る婦人もおられました。

診察を終えて帰ろうとしたとき、ぜんそく発作で、37歳の女性が倒れたとの連絡が入りました。直ちに南条医師、山城看護師が対応、症状も落ち着き救急車で坂総合病院に搬送しました。同時に、転倒してコンクリートに顔面を打ち出血しているとの患者さんにも対応するなど、合計55人の患者さんを診察しました。

多くの避難所で、民医連の医療を待ち望んでいます。

医薬品・食糧・衣類などを携えて支援

13日20時30分現在、全国25県連・団体から113人が、医薬品・食糧・衣類などを携え、支援に訪れました。以下紹介します。

全日本、神奈川、山形、山梨、東京、全日本、庄内医療生協、立川相互病院、兵庫、埼玉、京都、滋賀、群馬、奈良、大阪、全労連、農民連、東京健和会、神奈川汐田病院、生協連、長野、兵庫神戸健康共和会、鳥取、大阪耳原総合病院、東京みさと健和会（敬称略）

応援の皆様の中には、自分たちの食糧やテントなどを持参して、駆け付けて下さいました。たくさん的人的・物的・精神的ご支援心より感謝申し上げます。



埼玉民医連から応援のみなさん

電気・ガス・水道のライフラインが全て停止中の活動



今回の地震では、電気・ガス・水道・通信など、すべてのライフラインが停止したままです。（自家発電で対応）全国の仲間には活動の状況を報告できず申し訳ありません。写真は群馬民医連のみなさん）



兵庫・大阪・鳥取から13日夜到着したみなさん（坂総合病院で）